職員研修だより

SUS推進研究員授業
５年３組「地理B」轟木重利先生
「農業の地域区分の特徴と生産性」に関する学習をスライドモニターを使って各地域の写真や地域に関する資料で確認しグループでの話し合いで考えを深めていく授業だった。

中央中等教育学校
授業研究・FEWC推進部
学年研修④　第５号
令和元年１０月２９日（火）発行

学年別グループ協議で出た意見をまとめたものです。

１年３組「数学」三宅賢先生

- Aくんが積極的に取り組み、周囲と話しながら取り組む姿を見て、安心した。
- いつもおとなしい生徒も楽しそうに解いていて、会話もあり、良い雰囲気で学んでいた。
- Bくんが一生懸命解こうとしていて、それをCくんがよく確認しながら支えていた。わからないことがわからないと言える雰囲気があった。
- 一人の生徒が説明すると、教師が「どういうこと？」と問いかけ、周りの生徒も新しい道筋で考え出し、深い学びになっていた。グループ内で活躍する生徒は固定される予想があったが、そうではなく全ての生徒が学び合っていた。

２年３組「英語」古海伸陽先生

- Dくんは楽しそうで積極的で、Eさんに教えていた場面が印象的だった。
- 「渋滞」がわからないFさんに対し、Gさんの「traffic なんとかじゃない?」から、辞書を使って辿り着いていたのが、まさに主体的対話の中で学べていて良いと思った。
- 課題設定が生徒にとって適切で、無言にならずに取り組んでいた。また、場面設定を工夫することで、いろいろな生徒と関わることができていた。
- 支援が必要なHさんもペアのIさんとうまくコミュニケーションがとれていて、すばらしかった。
- この授業を通して、どの教科にも生かせることを学んだ。課題設定やタイミング等、改めて大切さを感じた。

３年３組「社会」中村哲次郎先生

- 日頃控えめなJさんがファシリテーター役になると、本人も頑張って進めようと努力し、それを周囲がよくサポートしていた。良い雰囲気でグループでの活動ができていた。
- みんなが意見を出せる課題設定が良かった。世の中の情報をいかにつかんでそれを活用しているかをみとることができた。
- Kさんはズバズバ言える発言力があるが、良い意味でまとめている場面が見られた。
- 世の中の動きに敏感な生徒たちに感心した。

４年３・４組「数学A」山浦淳史先生（兼SUS推進研究員授業）

- 生徒の発表が数学的によく考えられ、きちんとできていた。自分の授業でも生かしていきたい。
- わからないことを納得できるまで周りに尋ね続け、それを解決しようと説明しようとする姿があった。思考の流れを言葉にして共有しながら進められていた。
- 答えのない問いかけが多く見られた。自分なりの意見を、自分で目をつけたところから根拠を考え、数学を元に考えることができていた。意見が合わないこともあり、またそれがおもしろかった。
- Lさんは声は小さいものの、数学は得意で意見を出したがっていた。それをしっかり受け止めて聞いてくれる周りのこころ配りも良かった。

５年３・４組「数学Ⅲ」岡田一輝先生

- 2人や4人でグループ化するのではなく、生徒が自然発生的に発言し、他者に協力を求め、正しい解法を求めて移動し出す。そのダイナミズムがよく見えた。
- 生徒間に「わからない」を互いに言える関係ができていて、対話・協働が生まれていた。レベルの高い課題を出すことで、生徒の動機づけが高まっていた。
- 課題に取り組む中で、まずは自分で考え、困ったときに他者に聞くということは、実社会でも必要なことだと感じる。そして、いかに多様な意見等を取り入れて解決へと考えていけるかを実践していた授業だった。

６年１組「古典」井田比呂子先生

- 生徒の感性に驚かされた。座学では引き出せない生徒の思考力や発想力を知ることができた。
- それぞれの意見をもとに、時代背景や個々の価値観を考慮しながら意見を見いだそうと努力していた。また、課題について、自分の経験とも照らし合わせながら考えることもできていた。
- 話題が逸れてしまうMくんをNくんがうまく軌道修正していた。普段の様子を見る限りあまりそのような役割は期待できないが、意外だった。
- 話し合い活動ができるのは、基礎的な知識があり、それを運用できる力があるからこそであると実感した。

※次回のSUS研修は、<u>１１月１８日（月）</u>です。よろしくお願いします。